

若者の趣味と社会関心に関する研究

1240396 射場渡

指導教員 肥前洋一

研究背景

社会に無関心な若者が部屋に籠もって趣味に没頭している。よく聞く文言である。本当に若者は社会に無関心で、社会に関心の無い若者は趣味に閉じこもっているのだろうか。仮にそうならば、どの様な趣味や活動が若者を社会関心から遠ざけているのか。今、国民全体で社会関心（政治関心、経済関心）は低下傾向にあり若者はどの世代よりも低い。先行研究では若者の趣味と政治関心の関わりが明らかにした。本研究では政治関心だけではなく経済関心等への関わりも明らかにし、より社会一般的な結果が得られることに意義があるだろう。

研究目的

若者が取り組む趣味の違いが社会関心とどの様に関わっているのか明らかにしたい。そのため、まず本研究では、若者に馴染みのある趣味においてその結びつきの有無を明らかにすることを目的としている。

研究方法

社会学の界とハビトゥスの概念に基づいた質問群から構成されるアンケート調査を、高知工科大学生を対象に行い、個別趣味（音楽、小説、マンガ）の志向等を尋ねる。その後、趣味ごとのコミットメントの濃淡と社会関心の関係性を明らかにする。本稿では趣味へのコミットメントの濃淡を「趣味と自認するかどうか」または「趣味に費やす量や時間」で測る。また、個別趣味の志向等と社会関心の関係性を、共に順序ロジット回帰分析等を用いて明らかにする。

分析結果

音楽において費やす時間が長いほどより社会志向は弱まり個人志向が強くなる。小説はデータが少なく信憑性が低いが、小説を読む量は政治・経済関心に正の影響を与える。また、異なる経路で趣味と社会関心に結びつきがある可能性を以下で得られた。「音楽と政治関心」「小説と経済関心」「小説と社会志向度」「マンガと政治関心」「マンガと社会志向度」

考察・結論

先行研究では、趣味の違いが政治関心と繋がっている可能性が示されたが、本研究では加えて経済関心や社会全体の関心（社会志向度）についても繋がっている可能性が示唆された。今後趣味領域へのコミットメントの濃淡等が明確に定義されれば先の議論に進めるだろう。